

G.R.E.S. ウニアオン・ダ・イーリャ 2017 年

“ンザラ・ンデンブ、時の主に栄えあれ”

「時というものは存在しない。他の全てのものが存在しない限り！一方、時は、王である。存在する全てのものの中に存在する英雄である！時とは、存在へと変化するものとして生じる不存在である。」

第 1 部

まず、バントウの世界があった。宇宙の始まりのとき、その中にあるンザンザラ・ディア・ンザンビ、すなわち創造の寺院という豪華な宮殿で、魔法的な砂時計と黄金や象牙の装飾に囲まれて、偉大なる創造主にして至高の存在であるンザンビ・ンピングが暮らしていた。やがてその意を決し、アンゴラの王キテンボを召喚し、彼を時の象徴である魔法のインキシ(神像)に変化させた。進む時と天界の現象とを永遠に統合せんがためである。

雷と日々、嵐と週、火山と月、季節と年、津波と十年紀、それらを、何秒かを何世紀にも、何分かを幾千年にも、何時間かを命の限りに感じられるかのような時にわたって！魔法の扉が開き、長く存在する理性と感情が送り出される。運命と変化が。

宮殿の内部では、日夜、鉄の創造物であるンルンディスとフクンバスが、可塑性と進化の力をもったエネルギー体、ングズを守っていた。これが、キテンボの世界を作り変える力の供給源であった。

こうしてキテンボの自由な精霊体は、空を突き抜けて大地に降り立ち、超自然界と物質世界という二つの世界の間の接続を確立した。聖なる木の強い根をつくりだした。この聖木が、宇宙との交信、すなわち神々と人との交信と移動の手段としての役を果たすこととなった。

第 2 部

それから既に 46 億年が過ぎ去った！やがて超大陸となるその原型状態のところ、キテンボは全てのインキシの中で最古の存在であるンズンバランダーに合流し、共同して地上の自然を作った。大いなる生物多様性を守る森を形作るため、彼らはカテンデーに種をまくよう命じた。

均整の取れた発展は、空を赤く染め上げる隕石の到着によっておびやかされた。これには、道と動きをつかさどるキアンボテ・パンブ・ンジラの対処が必要となった。すなわち、大陸の位置と海面のレベルの変更が開始された。離れていく陸地の間には渡り道が設けられ、原始の動物たちが自由に移動することができた。

途中、キテンボは様々な部族の戦士たちに出会い、彼らに大地を耕すことを教えた。収穫するにはまず植えること。いくらかの種の動物を家畜とすること。多くの種が野生のままに生きることを認めること。キアンボテ・カビラ・ドゥイロ！ゴンゴビーラ！ムタランボ：空の狩人に栄えあれ！

冶金をつかさどるキウアー・ンコシは、石器を金属器に変化させるなかで、生き残るために戦う

戦士たちを目にした。鉄の力から、良くも悪くも、武器が生まれ、人の好戦性が生まれた。

キテンボはこれに動じることなく、謎をつかさどる健康と死のインキシであるカヴンゴと大地をつかさどるンスンプを招き、ククアナ、すなわち食用作物の豊饒の祭りを行わせた。ここに母なる大地は大なる祝福を受けた。こうして戦士キテンボは自然界を豊かにし、アンゴラの兄弟たちとの再会を果たし、先祖由来の要諦である友愛の契りを新たにし、次なる創造の旅へと進んだ。

### 第3部

一時代の終わり、海が陸と分かれる時。地殻の内外から膨大な水分が現れた。アンゴロ、ホンゴロ・メニヤ、すなわち空にかかる虹、そこからキテンボが思い出したのはそれだった。水蒸気の状態で巻き起こり、地上をめぐり、新たな循環をもたらす命のもと。

キテンボが触れるのをきっかけに、空から落ちる水、アンゴロとバンブルルセマは地面に浸みこみ、やがて清浄に輝いて生まれ変わった。全ての命の源である水。そこからキテンボは理解した。長寿を、万病の薬の原則を、聖なる不死の飲み物を。アフリカの儀式では、水は祓い清めの香水浴や滝の献上等の根幹を成す物質である。水はまた、魔法的な形で、固体ともなりうる。そうして自然界に、氷河、雪、氷山のような驚異の情景を作り出している。

聖なる水に潜り、キテンボは珊瑚に囲まれた水中宮殿にたどり着き、そこで深海の守護者であるサンバ・カルンガと海とその迷宮に暮らす美しい魚たちの主であるニカンダに出会った。

海水の恵はやがて、湖沼と影響しあうようになった。湖沼の水生物の命と美しさは、魅力的な淡水の人魚ンダダルの保護下にあった。ンダダラ！キシビ！

### 第4部

キテンボには、次に向かうべきところが、宇宙の炎、太陽であるとわかっていた。燃え盛る力の前で称えるべきは、火と雷と正義をつかさどるンザジ。かくして、この不正を正す光の石をあやつるインキシの前にいたった。宇宙の法則の導くところを知る者がたどるべき道を示す、熱い炎。命の衝撃、情熱、変革に結びつくエネルギー、動機、欲求、意欲、衝動、冒険心と関連する圧倒的な力。我々生きるもの全ての中に輝く聖なる火花。

火の魔力は、我々の代謝機能と情熱が我々を動かすがごとく、その及ぼす影響がすばやく、見事で、キテンボをも驚かすものだった。あくまでも動き続ける砂時計はキテンボを驚かせ続ける。太陽と月が、日と夜が会うのは、魔法の力の運び手、命の炎たる火が、新しい日をもたらす日光としてそこに存在するがゆえに可能となるのである。

太陽に、星に、焚き火に、炭火に、溶岩に、火山に、噴火に。寒い日に暖をもたらす、暑い日に発汗をうながす、熱。そのとき、もうひとつの自然の驚異である日食を、キテンボは見た。

それにとどまることなく、火には通信手段としての役目もあった。火は人に直接語りかける。火を前にすると、動物は恐れ、逃げる。しかし人間は驚き、興味を持って近づく。火は、信仰と儀式の一端を担うが、それも原始から人間に、飲食物の加工、狩猟、動物や敵対勢力への威嚇、金属加工、そして人の心に信念をよみがえらせることなど、多くの進歩をもたらしたからである。

## 第5部

アンゴラの王たるキテンボは次なる要素である空気に満ちた青い空へと向かい、嵐をつかさどるインキシである、時の神の寵愛を受けた強き女戦士、マタンバが隣に現れるのを待った。伝説に言う。時の神は、たまに気候を変動させることを好んだと。それも、既に地にまかれた種を根本から動かすかのような風をマタンバが吹かせる様をみたいがために。そのたびに、人間がつつましく立つ大地には、構成要素を組み替える魔法の力が及んだ。

マタンバはキテンボの手をとり、アフリカへと、ンザンビ王国へと戻るキテンボに付き添った。そこには、新しい王国の建設に従事し、仕事と富を何世紀にもわたって生み出し、全ての民に愛、そして、将来世代の命のための無尽の泉である自然への崇敬を広めるべき臣下たちが集っていた。

我らがどこにあらうとも、我らの命がンザンビ王国の理想を伝える手段たらんことを。我らの行い、言葉、活動が、その全力をもってこの素晴らしき王国を反映せんことを。こうして振り返る道を切り開いてこそ、我ら自身の今という時を生きることができる。

人類の未来と自然界の構成要素の保護は、これからどうなることだろう？ 命の保全のために集いし民が、キテンボに答えることだろう。

この時の物語では、聖なる木という記録が全ての年表として託されている。過去は根、現在は葉、未来が果実である。栄えあれ！ンザラ・ンデンブ！

ナミブ砂漠に暮らす老いた首長より  
ウニアオン・ダ・イーリャ・ド・ゴヴェルナドールに向けて

## 補足

アンゴラ、コンゴ！サラヴァ！そこから、宇宙の過去、現在、未来がやってきます！

大いなる、神話的な、不思議の、聖なる自然をもつ、アフリカの胸から、ウニアオン・ダ・イーリャが語るべき偉大なる王が立ち上がります、、、

キテンボ！万能の力をもつ時のインキシ。大いなる変革の力。偉大なる創造主、現実界と天界にまたがる力をもつ神。全ての信仰、宗教をたばねる神。命を生み出す聖なる風である時の息吹。

幻の中を行く、時の旅路。時、それは、船を導く立派な羅針盤。方位点、帆にあたる風。天候事象の変化と、地上の人類の時間。

理性と感情をつかさどる神。人が長い一生に感じ、苦しむ、感覚と感情を伝えるもの。変革、進化！全ての行き先を変更します。戦いの中に、戦争の中に、世界中の文明と遺産を縛り付けるような運命が転換する決定的瞬間に、時はあります。

ウニアオン・ダ・イーリャは「時」のリズムでの踊りを試みます。海の彼方の勇ましい民のように、時空を越えて奉獻される王の古式ゆかしき様をとり入れます。カーニバルを、「時の王」、すなわち、全てを変革する力をもった存在、の再生・祝福とします。過去というページに、今、未来を書き入れます。新しい時代、新しい時のために。

かの民の歌と力をもって、キテンボの加護を請い、全ての信条・信仰を表す色を旗の形に取り込みます。

新しい時のために、太鼓を叩きましょう。ウニアオン・ダ・イーリャの信仰が試されるときです！

イエー、時！イエー、時、ンザラ・ンデンブ！

企画：セヴェーロ・ルザルド、アンドレ・ホドリゲス

調査：ジェフェルソン・ペドロ

協力：ウビラタン・ヂ・オリヴェイラ・アラウージョ、ヒカルド・エウアンデル・テノーリオ、アレックス・ヴァレーラ、ウエリントン・インペリアウ

### 参考文献

BATSIKAMA, Patricio: As origens do Reino do Kongo, Luanda, Mayamba Editora, 2010.

BRASIL. Ministério da Educação. Orientações e Ações para a educação das relações étnico-raciais. Brasília: SECAD, 2006.

CARENO, Mary Francisca do. A lei 10639, a diversidade cultural e racial e as práticas escolares. Disponível em <http://www.grubas.com.br/datafiles>

CARMO, J. G. Botura. Africanidades: O início de uma discussão curricular. IN: <http://paginas.terra.com.br/educacao/josue/index%20166.htm>.

CHAUI, Marilena. Convite a Filosofia. São Paulo: Ática, 1994.

FANON, F. Pele negra, máscaras brancas. Porto: Paisagem, s. d.

GOMES, Flavio dos Santos. Quilombos IN: PINSKY, Jaime & Pinsky, Carla Bassanezi. História da Cidadania 3ª ed. São Paulo : Contexto, 2005.

JURKEVICZ, Vera Irene. As irmandades negras: “lócus” da religiosidade popular. IN: Revista Tecnologia e Sociedade. Periódico Técnico – científico do Programa de Pós Graduação em tecnologia da UTFPR. n.1(out-2005) – Curitiba :Editora UTFPR.p 195-207.

KUKANDA, Vatomene. “Diversidade Linguística em África”. In: Africana Studia número 3. CEAUP: Porto, 2000.

KUKANDA, Vatomene. Notas de Introdução à Linguística Bantu – Lubango: Universidade Agostinho Neto. Instituto Superior de Ciências da Educação, 1986.

LOPES, H. T. 500 anos de cultura e evangelização brancas do ponto de vista das religiões afro-brasileiras. Rio de Janeiro, 1990. (Texto datilografado).

MOURA, C. Sociologia do negro brasileiro. São Paulo: Ática, 1988.

PALMARES DO SUL.

MUNANGA, Kabengele & GOMES, Nilma Lino. O negro no Brasil de hoje: história, realidades, problemas e caminhos. São Paulo:Global, 2004

PINSKY, Jaime. (org.) O ensino de História e a criação do fato. 5ª ed. São Paulo: Contexto, 1992.

RATTS, Alex. DAMASCENA, Adriane A. Participação africana na formação cultural brasileira. In: Educação africanidades Brasil. MEC – SECAD – UNB – CEAD – Faculdade de Educação. Brasília. 2006. (p. 168 -183).

SOUZA, N. S. Tornar-se negro. Rio de Janeiro: Graal, 1983.

SILVA, Petronilha Beatriz Gonçalves. Africanidades. Revista do Professor, Porto Alegre, p.29-30, out./dez. 1995.

VOGEL, Arno. A Galinha d'Angola Iniciação e identidade na Cultura afro brasileira. Rio de Janeiro: FLACSO: Niterói, RJ: EDUFF, 1993.

### サンバ・エンヘッド

作： マリーニョ、ロボ・ジュニオール、フェリピ・ムシーリ、ベト・マスカレーニャス、Dr.ホビソン、ホニー・セナ、マルセラオン、MM

バントウ族が称える創造者ンザンビ  
魔法の砂時計が回る  
キテンボ王を称えよ  
詩に歌われるンザラ・ンデンブ  
命に意味を与えるべく、形を変える  
長い旅路を経て、空を切り裂き、大地にたどり着く  
聖なるかな、ンズンバランダーのルーツ  
カテンデーは、秘密を守る  
赤く染まる、キアンボテーが我らを進ませた  
善と悪の戦いの中、キウアーは金属を鍛えた  
聖なる神々が祝福する  
ククアナは豊饒、祝うべき自然

ンダンダルンダが私を浸す(私を浸す)  
地面から生じる樹液  
清めの儀式の中で  
揺れる波間の中(波間の)  
サンバをカルンガが我らにもたらず  
深海からは不思議な魚たち

熱く燃えたぎる炎  
燃える火は情熱  
ンザジがふるう正義  
雷の力を用い  
宇宙の摂理が定められ  
我らに教訓を与える  
太陽が月に口づけするとき  
空に見た、インスピレーションを  
マタンバが息を吹きかけた  
風が運ぶ、アンゴラを治めるように  
愛の種を植え  
生まれる命は命の樹

イエーイエー、回る、イエー、回る  
回れ、終わり無き時よ  
信じる時、それがウニアオン  
イーリャの太鼓が響く